

会 報

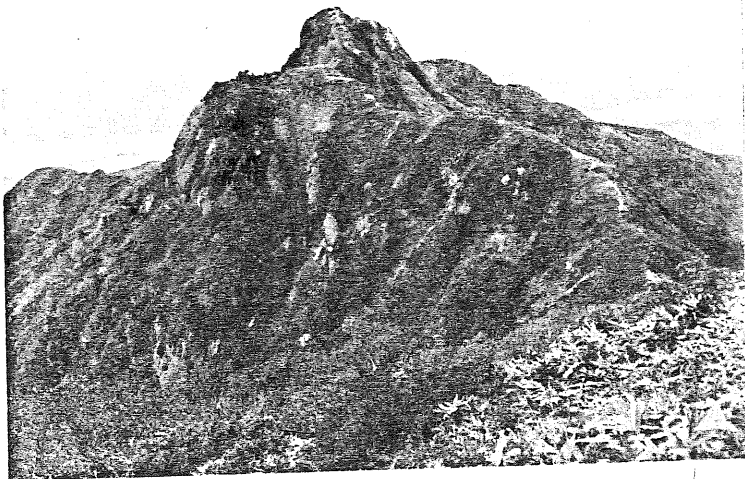
35行

36行

1 9 8 7

N o 1 7

18



越後三山 八海山



神戸山岳会

国沢昭美

メンバー 岸本 小林 吉田 大西 国沢

私達が入山していた三日間（5月3日－5日）は、最後の日に、午後から天候が崩れたものの素晴らしい登山日和に恵まれました。

たった3日間でしたが、私にとっては心身共に長いコースであったようです。最後に、気が抜けてしまって大失敗をしてしまいました。

下山の日は、三の窓をお昼前に、出発。急な池の谷ガリーを登り両側がすっぽり切れて大変高度間のある稜線を緊張しながら剣山頂へ到着、あとは、馬場島迄早月尾根を下るだけでした。

上部は、クラストした所や池の谷側の、トラバース等緊張させられました。雪が腐っていて絶えずアイゼンの雪を払っていなければいけませんでした。

事故が起きたのは、伝蔵小屋も過ぎて別段難しい所では、無かったと思います。けれどもやっぱり馬場島まで要所では、気を張って居なければいけなかった。ちょっとアイゼンの雪をはらい、確実に歩いていたら何でもなかったでしょう、そして滑落した時の停止体制が出来なかったことは、自分の登山技術がいかに未熟であったか思い知らせれました。最悪の事態にならなかったのは、本当に幸運だったと思います。

時間は午後の4時20分頃。場所は、1600M付近であった。この辺は、白萩側にルートがあり、それをふさぐように倒木がありました。小林さんと吉田さんが横倒しの木の上に乗って飛び越えました。私は、木の上には上がらず、斜面を少し下って木を巻こうとしたのです。そこは、沢状の斜面になっていました。事故が起きるのは、そんなものかもしれませんが、深くかんがえず2、3歩下ったとき、アイゼンがかからずスリップしました。後になってわかったことですが、すぐにピッケルを手放してしまいました。その時は、どんどん自分が流されて行き、背中のザックが重くてどうしようもありませんでした。一度止まりかけましたが止まらず今度は、もっと早くなりました。ザックをはずさなければと思い、必死ではずしました。ザックが沢へ向かってながされていきました。何とかうつ伏せになり止まりました。岸本さんが「動くな」と怒鳴ったそうですが、私には、聞こえませんでした。すぐに岸本さんがおりてきて下さいました。自分の流されて来た跡が、雪面についていました。200M程流されていました。

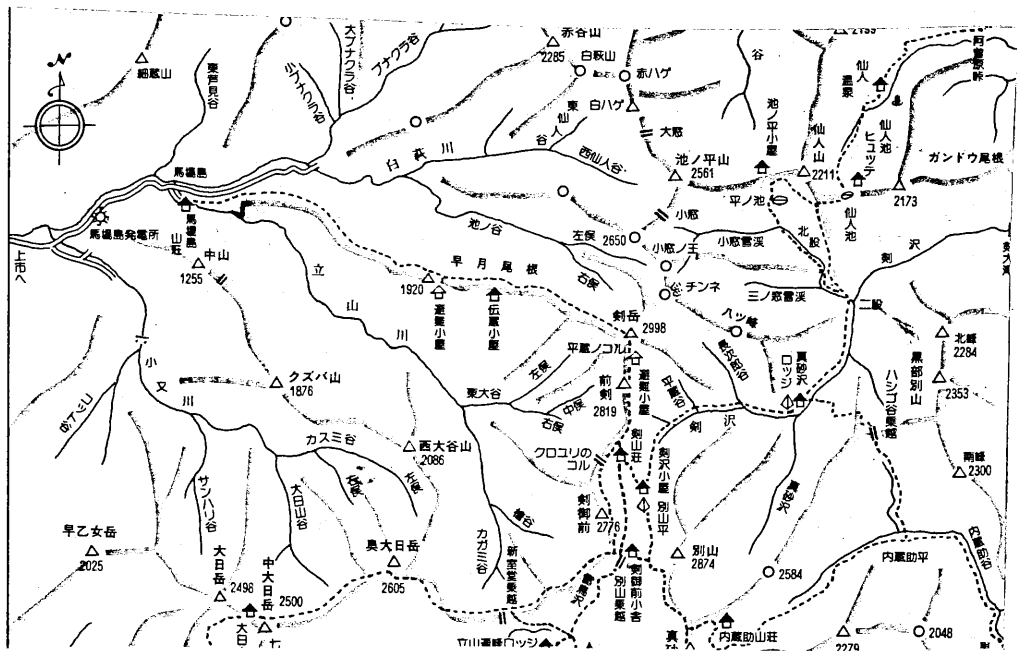
小林さんと吉田さんが、ザックを探しに沢へ降りて下さいました。おそらくバラバラになっているだろうと言っていたのに、無事に何も失わずに戻って来ました。

1200M付近で見つかったそうです。ピッケルは、滑った場所の近くで見つかったので、手元からすぐに離していたことが分かりました。体の方は、左後頭部を少し打ったのと、顔が少々痛いだけでした。

止まった地点もラッキーでした、もう少し下で、沢がカーブしていたので、もっと滑っていたら対岸へ当たっていたかもしれません。後になって考えると、何もかもついていたといえるでしょう。本当に、幸運だったと思います。

パーティのみなさんにも、大変ご迷惑を掛けてしまったことを、申し訳なく思っております。一つ間違えば、大事故になっていたかもしれない自分の失敗。登山は、入山地点から下山地点まで、肝心なところでは、気を抜かず、確実な判断が技術とともに必要であると思いました。

今後は、この教訓を生かして行かなければと思っています。  
最後になりましたが、事故を起こしたときパーティの皆さんの優しさや暖かさが身にしました。本当に有難うございました。



昭和60年4月30日—5月5日

春山合宿食料計画

	朝	昼	晩
5/1	弁当	パン 2ケ チョコレイト 1ケ 鮎 5ケ ちりめんじゃこ 1袋	赤飯(ジ) 1/2 味噌汁 焼き豚 1/3
5/2	白飯(ジ) 1/2 味噌汁 1カップ 目ざし 2尾	パン 2ケ ゼリー 1ケ 鮎 5ケ ちりめんじゃこ	赤飯(ジ) 1/2 味噌汁 1カップ 桜干し 1尾
5/3	白飯(ジ) 1/2 味噌汁 1カップ 目ざし 2尾	パン 2ケ チョコレート 1ケ 鮎 5ケ ちりめんじゃこ	白飯 1/2合 豚汁(ペミカン) つけもの 桜干し 1尾
5/4	ラーメン 1袋 もち 2ケ つけもの	行動食(各自)	白飯 1/2合 カレー(ペミカン) つけもの
5/5	白飯 1/2合	非常食 カタクリ粉 カロリーメイト	しゅ向品 コーヒ お茶 ココア 紅茶 砂糖 粉ミルク

## 5月合宿の反省

予定より早い日程で、無事終わられました。(下りの下のほうでスリップ(200m)があったが、大丈夫であった。

小林

上りの場合、キックステップにもっと自信をもってやれば良いと思う。ニードルの手前のところなど、パーティー全員が通過できるかどうか判断し、素早くザイルを出したりする事が必要だと思う。

雪上訓練をやったが、もっと真剣に、何度もやっていたら慣れてくるのでは、ないかと思う。

岸本

キックステップがうまくなれば、体力的にも楽になる。慣れの問題でもあるが？ニードルの通過の懸垂が、斜め向きだった為か不慣れな感じだった。

雪に対する、恐怖感がある。腰が逃げています。ピッケルの使い方が出来ていない。ピッケルバンドスリップ時飛ばさないように、各自工夫が必要。肩に掛ける場合は、長さを長めにしないと、刺さった事故がある。

国沢

危険なところは、緊張していたが、下りで気を抜いていたためスリップしたのだと思う。

大西

もっと真面目に、雪上訓練をやらなければならないと思った。

個人山行

古賀

コブ尾根-滝谷の予定だったが、唐沢岳のトラバースで、スリップ雪が腐っていたためと思われる。ザイルを出すべきだったと思う。

## 夏山合宿

国沢昭美

昭和60年8月15日-18日

先発メンバー 広池 迫田

後発メンバー 幸内 矢木 吉田 馬場 大西 国沢

8月15日(晴れ) 上高地(6:30) 横尾(9:45) カラ沢(13:40)

8月16日(晴れのち小雨) カラ沢(4:10) 三、四のゴル(7:00) 前穂北壁基部(8:30) Aフェイス基部(11:15) 前穂高岳(14:00) 奥穂高岳(16:05) カラ沢(18:07)

ヘッドランプをつけてカラ沢を出発する。雪渓を登って、三、四のゴル下迄行く。ここからガレをゴル迄登る。ほとんどが浮き石で大変気を遣う、落石で神経がピリピリする。上に行く程ひどく3時間ぐらいかかってしまう。ゴルから、アイゼンをつけ、今度は、奥又側へ下降する。短いけれども傾斜が強い。皆さん、前向きで、バランスよく下って行く、私は、幸内さんの後ろをビビりながら下る。5月の事故の恐怖が残っているのかもしれない。

雪渓が切れたところで三峰リッジに沿って末端まで下る。ここで四峰を登る矢木、吉田さんとわかれ私達四人は、三峰リッジを少し登り左ヘトラバースしてB沢へ入り、Dフェイス下まで登りここから北壁側ヘトラバースする。先行パーティがいたので準備をして待つ。

取り付きは、雪渓の多少で違ってくるので私達は、ルート図取り付きよりだいぶ上で、アンザイレンしたようである。幸内さんと馬場さん、大西さんと私がザイルを組む。凹角の部分に登って右手へいく。2Mぐらいの凹角に取り付こうとしたとき、上部から”落”の音がきこへ、すごい落石の音がする。思わず右手の岩にピタリとしがみつくと、体のすぐ横を石が飛んで落ちて行った。大西さんから声がかかる、お互い無事であった。気を取り直してのぼり始める。凹角を越えたと所は、小さいテラスになっていて1ピッチめを切る。この凹角が松高カミンだったようである。2ピッチめは、階段状のフェイスを北壁大テラスを越え岩壁下のバンドに到る。右手のコンタクトラインを先行パーティが登っていた。3ピッチめは、岸壁左手のチムニー状のところを中にはいらず右のカンテを登る。出口に、大きな浮き石が有りびっくりする。この辺は、岩が脆くておもしろい感じがつかない。ここから大まかな岩の凹状部を登り、ハング下を左上して北壁を終

了する。登っている間、四峰の辺りからものすごい岩雪崩の音が沢に反響して不気味であった。ここからAフェイス基部まで草付きのガレをのぼる。

Aフェイス取り付きは、3本有るようで、私達は、まん中のルートを登ったようである。Aフェイスは、硬くしっかりしているので安心である。大西さんが大好きな岩である。彼女がトップを登る。1ピッチ目は、少し広い岩溝の中と右手のフェイスに手がかりを求めて登って行くと岩壁下のバンドに到る。2ピッチめは、右手の緩い凹角を抜け、切り立った壁の岩溝を登る。この岩溝と左手のチムニーの2本有る。Aフェイスを終了したところでガスが晴れ、高度感のものすごさにびっくりする。

終了点から前穂頂上は、すぐであった。トウハンの終了が頂上というのは、気持ちが良いものである。ガスで何も見えない山頂を後に小雨降る中、白出の科尔からザイテングラードを下る。ザイテンの下りから眺めた三、四の科尔の凄い傾斜に、よく登ったと我ながら驚いてしまった。

テントに戻ると、先行パーティがつかえてトウハンを断念した、吉田さん八木さんが戻っていた。先行パーティのセカンドが初心者で、落ちてばかりいて進まなかったそうである。技術が無いということは、自分のパーティだけでなく他のパーティにも大変迷惑を掛けてしまうものだと思えて痛感した。

8月17日（晴れのち雨）

カラ沢（6：10）北穂東稜最低科尔（7：50）科尔（9：10）北穂高岳（10：00）カラ沢（14：35）

東稜は、途中まで南稜と同じルートに行く。北穂沢カールをトラバースして東稜の最低科尔へ登って行く。わりと良く踏まれていて（昨日の三四の科尔を経験した後では）易しかった。稜線に出るといちどに視界が開ける。横尾谷側は、お花畑が広がっていた。

ここから東稜の科尔まで稜線を忠実に沿って行く、積木を重ねたような岩稜帯で適度な緊張と展望を楽しみながらのんびりといく、核心部は、最終科尔手前で、ナイフエッジを右へ越えたところから、切れた岩稜帯を進み科尔へクライミングダウンするところまでである。技術的には、難しく無いけれど高度感にびびってしまった。

科尔から広いガレ状の稜を登り簡単な岩場を進むと突然、北穂の小屋に着いた。北穂北峰にて滝谷を眺める。クラック尾根に沢山の人が取り付いていた。まつなみ岩からC沢下降点迄行ってみる。C沢は、急なガレ場で落石の巣のような感じだった。

北穂から白出の科尔まで滝谷の景観を眺めながら一般縦走路を経てカラサワへ

下った。

雪渓での下降や、ガレ場での登り、それから岩登りの技術等、どれをとっても反省点ばかりの合宿でしたが、念願の奥又白の岩場をのぼれたことは、とってもうれしいことでした。そして全員無事合宿を終了できて本当によかったと思います。

8月18日(曇り)

カラサワ(5:30)上高地(10:00)

## 夏山合宿

幸内 義孝

8月15日いつものように、上高地で朝飯を食べて登山計画所を提出して、のんびりと歩く、今日はカラサワまでなので本当にゆっくりと行く。ぼんやりと人の動きをみていると、みんな揃って川上の方へ、どんどん歩いて行く、あちらの方になにかいいものでもあるのかなあ？

私達も又そうであると考えつつカラサワに着く

16日

三、四の科尔迄は、ガラガラで大変悪い落石に、注意しよう奥又白側は、ガラバを歩いても、下降可能、落石をしないように、気を付けよう。雪上は、アイゼンが必要だろう。初めての奥又白の壁ということで、どんなだろうと思っていました。剣岳の方が大きいように、思いました。けれども、どこの岩場も、落石が多いようです。

北壁は、壁というものではありませんでした、岩が少しで後は、くさつきのような、大変脆いので要注意。

Aフェイスは、岩は硬いが少し難しく思った。ルート図には無いまん中のルートに登はんしたようだ、でも無事にのぼれてよかった。

前穂高岳から奥穂高岳へと縦走する。奥穂高岳はギャルやアンチャンに占領されて登れません。皆さんそれぞれに、楽しそうでした。

17日

北穂高岳東稜は、南稜より人が少なく、大変のんびり楽しい山行でした。北穂高岳頂上から登ハンしている人たちを眺めて、ワインを飲み、のんびりとすごしました。白出科尔迄縦走したら年輩の人たちが足を引きずりながら下山して



いるのを見て、頑張るなあと思いました。少し下ったと所より雨が降り出しました。

18日

下山は、いつものようにそそくさくと上高地へ、川原へ降りる手前で八木さんが転んで手を切った。一応救急用品はあったものの手当の方法が分からず、又包帯の結び方も知らずでいたが、大西さんが手ぎわよくやってくれて助かりました。そして上高地へ

### 夏山合宿 メンバー決定

先発-----迫田 広池 8月10日-13日

トウハン-----びょうぶ岩 東稜。雲稜。一ルンゼ。

その後単独で(広池)槍ヶ岳往復

後発-----矢木 吉田 国沢 馬場 大西 幸内 8月14日-18日

### 8月24日(日) 夏山合宿及び個人山行反省会

参加者 片山 島田 岸本 迫田 矢木 吉田 国沢 広池 馬場 大西 幸内  
先発

11日 一ルンゼ核心部あたりから急に雨や、落石があった

12日 雨のため停滞。ベースを横尾におろす。

13日 東稜曇りから快方に向かい、天候は良かった。迫田帰神

14日 広池単独で槍ヶ岳往復 帰神

反省 人工トウハンに時間がかかってしまう。

コメント ストローは便利です。

### 後発

15日 からさわ14:00頃 のんびりできた。BPからさわ

16日 三、四のゴルから前穂高トウハン

ガレ場の登り、雪溪の下り

四峰正面 吉田 矢木

北壁-Aフェイス 幸内 馬場 大西 国沢

前穂高14:00-からさわ18:00

17日 北穂東稜 全員

快適な岩稜歩き(予想に反してトウハンは、なかった。)

予定はC沢-3尾根だったが、変更して奥穂高-ザイテングラードを経

てからさわ15:00到着後間もなく雨が激しくなった。

18日 下山 本谷橋のからさわより30分ぐらいのところでY氏が転倒して、ピッケルで外傷を負う。

無事帰って来る迄は、気を抜いてはいけない。

装備 6人用テント 6人寝たが、底面積が広いせいか、夏でも、割合快適に過ごせた。

#### 個人反省

広池 人工トウハンの練習の必要を感じた。

横尾にベースを置いたので、楽だった、これからは、もっとハードにしてもよいのでは！

最後にアブミを回収するときに、落としてしまった、気をつけなければいけないと、思った。

迫田 カラサワに降りずに、横尾への下降路がはっきり分からず、最低コル迄ゆき、少しやぶごぎするのが一番近いと思われた。

国沢 三四のコルの登り、C沢への下りの雪渓が、大変恐かった。

奥又の、概念把握ができた、落石が多く恐かった。

Aフェイスのトウハン中、ガスがかかっている、高度感がなかった。後でガスがはれた。

東稜でも、一部びびってしまったがザイルがあると安心してしまい、恐がるのを克服しなければいけないと思った。

大西 三四のコルの登りと落石が恐かった。

北壁の落石、自分が落とすのと他から落されるのが恐怖であったが、Aフェイスは、少し恐かったものの快適に登れてうれしかったし、よかった。

食料は、持って行った物が、殆どきれいに無くなったので満足している。

3日目の東稜は、快適であったが、第3尾根は、登らなかったが、天候が悪くなったので登らずに正解だったとおもいます。

最後に、医療で、矢木さんの外傷のとき、消毒薬がなかった。

矢木 ベース迄は、バテずに行けた。(前回は、バテてしまった)

四峰正面、北条新村ルートへは、三四のコルから下ったが、落石がB沢に、集中するので、インゼルを越えて、C沢へ入った、しかし、四峰からの落石があり、取り付き迄の時間がかかった。(取りつき 10:00頃)

ある先行パーティが遅いため、ようやく10:00半頃一ピッチ目、先行パーティの落石により、前のパーティがケガ。その上ハイマツテラス

で12人くらい、待っているとの事。最初のパーティが全然動けず、時間が掛かり過ぎると、判断、降りることにした。11mシングルだったが先行の怪我をしたパーティが降りるので、一緒にクライムダウンさせてもらった。それから五六經由カラサワ迄。

トウハンは、出来なかったが、自分で建てた目標は、一応達せられた。アプローチでは、三四からでなく五六にしたほうが時間が早く安全なように思う。

アクシデントの場合シングルでなくドッペルの方が良いと思った。

東稜-北穂-奥穂-ザイテンは、滝だにが日程的にも、難しくやめにした。落石の心配からも快方され楽しかった。

下山中ピッケルのブレードで怪我をしてしまった。その日の内に救急病院で手当をし、大したことなくすんだ、みんなに迷惑を掛けてしまった。

馬場 今年、就職したこともあり、余り練習できずぶっつけ本番だった。

三四のゴルへの登りは、斜面の、傾斜は恐くないが、足をおいたところが崩れていく感じだった。

北壁は、グレードよりも、持つ岩全部が落ちそうで緊張した。スケールの大きさも感じた、落石が多かった。

天候も良く無事のぼれて、よかった。ふだんの練習不足、不節制を感じた。

これからは、もっと積極的に参加し、技術を磨きたい。

吉田 アプローチに予想外に時間が掛かり、結局のぼれなかった。C沢の下りでも、落石が多かったのは、もっと早く行っていれば避けられたように思う。

事前の下調べ不足。結果的に登れなかったが、是非又行きたい。

幸内 岩登りの練習をもっと良くやっておかなければと思った。

岩と縦走両方で来て、大変満足であった。新人も居なかったので気楽に計画し、気楽に行けた。大変楽しい山行でした。

総括 カラサワから奥又、滝谷。両方を欲張ったのは、計画段階に、無理があったのではないか、どちらかに集中させた方が、充実した登はんができたのではないか。

今後一般的なルートばかりでなく新しいルートを目標にするように、なって欲しい。

現状では、どこのルートをいくにしても、早く行かないと、順番待ちに、なってしまう、考えて計画を建てるように！。

## 61年度 春山合宿

小林 利樹

参加者 CL小林 SL幸内 TOUHAN L古賀 装備国沢 吉田 食料 山崎  
藤本 野上 米沢 岸本

### 行動日程

4月29日 上高地-岳沢 小林

30日 岳沢-横尾 小林

5月 1日 上高地-横尾-びょうぶ東稜トウハン 古賀 小林 幸内

2日 東稜下降-横尾

3日 横尾-上高地-岳沢 古賀 小林 幸内

上高地-岳沢 国沢 吉田 山崎 藤本 野上 米沢 岸本

4日 岳沢-コブ尾根 吉田 野上

岳沢-天狗沢-コブ尾根の頭、往復小林 古賀 山崎 藤本 米沢

岳沢-西穂沢-西穂高岳-天狗沢-岳沢-帰神 国沢 岸本 幸内

5日 岳沢-上高地-帰神 小林 古賀 吉田 山崎 藤本 米沢 野上

今、合宿は、数多くの人に参加してもらおうとアプローチの短い岳沢に決定しました。

OBの方も沢山参加された大変楽しい合宿になりました。豪華な夕食もあり、たまにはこうゆうのもよいようです。完全燃焼出来た方も、出来なかった方もあると思いますが、それは又次回の合宿及び個人山行に、つなげていければ良いと思います。

より高度なアルピニズムを共に考えて実践して行きたく思い春山合宿の反省とします。

### ビョウブ岩東稜

小林利樹

4月29日 早朝の上高地に一人降り立ち待会所で朝食を食べる。見上げる穂高連峰は、青く澄み渡り心より感激し山は、いつ来ても好いもんだなあ、ひとり思う。

上天気だし暑くてたまりません。岳沢ヒュッテ近くにテントを張るのだけれども何分一人なので整地するのに、2時間も掛かって仕舞う。

12時ごろから暇なので天狗のコル迄散歩がてらに行く。

4月30日 今日も快晴で朝から太陽がジリジリと照らしテントの中は、蒸風呂のようであらなくなっただけです。横尾橋の下でツェルトを張り、外ですこしの昼寝をします。

古賀さん幸内さんが明日やってくるので今日もまた暇で、横尾までちんたら行くだけです。横尾橋の下でツェルトを張り、外ですこしの昼寝をします。

明日はビヨブ岩のトウハンだと思うと胸が高鳴るのが、自分で分かるような気分。

5月1日 9時頃に二人は来るだろうと思っていたら、8時頃にやって来て大変びっくり、なんと早く歩いてきたことだろう。ツェルトの中にいたら分からなかったことだろう、二人とうまく出会えてラッキー！

9時過ぎに横尾を出発しビヨブ岩へと足をを進める。僕は毎日ブラブラなので大変快調です。他の二人は、上高地からなので大変気の毒に思います。

一ルンゼ押しだしは、夏と違って上から下まで雪の斜面になっていて登るのもずいぶんと楽に歩けます。T4取り付きでガチャを付けいよいよトウハンの開始です。

クレッターじゃなくて登山靴なので少し勝手が違い最初は戸惑うが、少し登ると慣れてきて快調に行く？。T4テラスからT2テラスに30分近くかかってしまうここでスリップでもしたら下部岸壁を空中遊泳をすることでしょう。僕は、鳥じゃないので遠慮さして貰い慎重に行く。

T2に12時に付き飯を食べていよいよ東稜トウハンです。

僕が3ピッチ目位にいると後のパーティの人がシュリングが切れて落ちたと古賀さんから聞き、僕達も人が足りなければ降りましようかというのが、怪我も大したこと無く人もいるの出登って下さいとの返事だったので登ることにした。(後で聞くと怪我も少しひどかったようです。)単調な人工で快調に高度を稼ぐ、最終ピッチ近くで日が暮れて来てヘッドランプを出してのトウハンをする。終了と同時に雨がパラパラと降って来てショック。今日は、雨中のビバークです。ツェルトを3人で被り寝るのだけれども風が入って来て寒いので下に引いていたマットを頭から被り、腹も減ってきたのでラスクをバリバリと食べる。横でYさんも食べるというのでラスクをあげて食べる。Hさんはツェルトのくぼみに水が溜りその中に尻が入っていると云っていた。

## 個人山行

### 天狗岳

島田文雄

昭和60年5月5日(日)

パーティ 島田、新川、野上(博)、堀野

コースタイム 高野山9:20タクシー天狗岳麓10:00前岳11:00  
天狗岳11:20コノ谷を経て林道の出会い12:55松尾峠  
14:00紀伊細川駅16:20

高野山ケーブル山頂駅からタクシーで湯川辻へ向かう、しかし運転手が嫌がったので大分手前で下車、折り良く軽自動車 came たので便乗を頼む、運転する人は、地元の人で天狗岳けに詳しく、山麓まで送ってもらった。

地図にはない道だったが、植林のため人が入っているというので踏み跡を辿り、谷筋からちご百合の群生している山の腹を巻きながら登る。やがて植林の為切り開かれた広々とした斜面の尾根に取り付き、鉄砲登りの急斜面を直登すると、前岳と天狗岳のコルへでた。コルから前岳へ登る、展望良く、伯母子岳、護摩壇山や遠くには大峰の山波が一望できる。素晴らしい眺めであった。いったんコルへもどり樹間を登ると二等三角点の檜がたっている天狗岳(967、8m)の頂上であった。ここは周囲の樹が高く展望は全然無かった。大休止昼食をとる。北へ向かった尾根からこの谷へ下る。この谷もちご百合やシャガが花盛りで時々ホトトギスやエンザイスマレも目についた。湯川谷へがっし、尚も下ると林道へでた。振りかえり仰ぎ見る天狗岳の姿は美しかった。下湯川の集落を経て、貴志川を渡り、長い道のりの県道を花坂や矢立の集落を経て南海電鉄紀伊細川駅へ向かった。

### 口の深谷遊行

島田文雄

パーティ 島田、新川、武政

コースタイム 坊村林道入口9:25牛コバ10:00第一の滝上10:25谷  
の途中で昼食12:1525mの滝14:35ワサビ峠中峠の出  
合15:20中峠15:35シャクシコバの頭15:50月見岩 16:30奥の  
深谷道16:50牛コバ18:00

道標に従い高巻きをする道をと、第一の滝の上部にでる。(この谷の滝にはなぜか名前がない)。地下足袋、藁地で足ごしらえをして、流れに第一步を踏み入れる。ホテッタ足に気持ちの良い冷たさで一気に汗が引いた。大小様々な滝が次々として行くてに立ちはだかる。滝を直登したり高巻きしながら遡行を続ける。途中の10mか12mぐらいの滝の下に高校生らしいグループが集まってザイルやカラビナ等を用意していた。滝の上部に2、3本のハーケンが打ち込まれているのがみられた。間もなくオーバーハングぎみになった落ち口から勢い良く水を吹き出すように見えるちょっとめずらしい約10mの滝があった。谷の傾斜が緩やかになったので大休止をとる。続いて前方に約25mの滝がみえてくる。

滝は谷幅全体に水が落下している、幅の広い滝でなかなか勇壮であった、見上げるとハーケンがあちらこちらに打っており、シャワーを覚悟で直登すればおもしろい岩登りができると思う。この滝上からは、流れも緩やかになり、兩岸の杉の木立が見え出して、ワサビ峠と中峠を結ぶ道に出合った。小休後、中峠からシヤクシコバの頭を経て急な下りの続く小川新道を下った。南比良峠方面へ通じている奥の深谷に添う道を牛コバまで歩を進めた。

## 石ブチ東谷

昭和60年5月19日(日)

島田文雄

パーティ 島田、新川、武政

コースタイム 石ブチ谷林道入口8:30-石ブチ西谷との出会い8:50-東谷を遡行-尾根へ出る11:00-大日岳11:30-葛木山11:40-セト12:00-12:35-東西石ブチ谷で合い13:45-林道入口14:00

水越し峠の少し西方の石ブチ林道入口に駐車、林道を進むと東西石ブチ谷出合へ到着した。左側の石ブチ東谷を遡行する。水量は割合に多い大小の滝を直登したり巻いたりしながら遡ると14mか15mぐらいの滝に出る。何故か急に水量が少なくなり貧相な滝であった。これからは再び小滝の連続する谷筋となった。振り返ると、高原のような葛城山のツツジの群生が美しく眺められた。谷は明るく広々と開けて、最後の詰めのカレ場を登り切ると六道の辻へ通じている尾根筋であった。六道の辻、大日岳、葛木山をおお急ぎで通過してセトで昼食、雨が当たりだしたので予定していた石ぶち西谷を下る予定を中止して、林道を下ること

## 個人山行

### 天狗岳

島田文雄

昭和60年5月5日(日)

パーティ 島田、新川、野上(博)、堀野

コースタイム 高野山9:20タクシー天狗岳麓10:00前岳11:00

天狗岳11:20コノ谷を経て林道の出会い12:55松尾峠

14:00紀伊細川駅16:20

高野山ケーブル山頂駅からタクシーで湯川辻へ向かう、しかし運転手が嫌がったので大分手前で下車、折り良く軽自動車 came たので便乗を頼む、運転する人は、地元の人で天狗岳に詳しく、山麓まで送ってもらった。

地図にはない道だったが、植林のため人が入っているというので踏み跡を辿り、谷筋からちご百合の群生している山の腹を巻きながら登る。やがて植林の為切り開かれた広々とした斜面の尾根に取り付き、鉄砲登りの急斜面を直登すると、前岳と天狗岳のコルへでた。コルから前岳へ登る、展望良く、伯母子岳、護摩壇山や遠くには大峰の山波が一望できる。素晴らしい眺めであった。いったんコルへもどり樹間を登ると二等三角点の檜がたっている天狗岳(967、8m)の頂上であった。ここは周囲の樹が高く展望は全然無かった。大休止昼食をとる。北へ向かった尾根からこの谷へ下る。この谷もちご百合やシャガが花盛りで時々ホトトギスやエンザイスミレも目についた。湯川谷へがっし、尚も下ると林道へでた。振りかえり仰ぎ見る天狗岳の姿は美しかった。下湯川の集落を経て、貴志川を渡り、長い道のりの県道を花坂や矢立の集落を経て南海電鉄紀伊細川駅へ向かった。

## 口の深谷遊行

島田文雄

パーティ 島田、新川、武政

コースタイム 坊村林道入口9:25牛コバ10:00第一の滝上10:25谷

の途中で昼食12:1525mの滝14:35ワサビ峠中峠の出

合15:20中峠15:35シャクシコバの頭15:50月見岩16:30奥の

深谷道16:50牛コバ18:00



道標に従い高巻きをする道を取り、第一の滝の上部にでる。(この谷の滝にはなぜか名前がない)。地下足袋、藁地で足ごしらえをして、流れに第一步を踏み入れる。ホテッタ足に気持ちの良い冷たさで一気に汗が引いた。大小様々な滝が次々に行くてに立ちはだかる。滝を直登したり高巻きしながら遡行を続ける。

途中の10mか12mぐらいの滝の下に高校生らしいグループが集まってザイルやカラビナ等を用意していた。滝の上部に2、3本のハーケンが打ち込まれてるのがみられた。間もなくオーバーハングぎみになった落ち口から勢い良く水を吹き出すように見えるちょっとめずらしい約10mの滝があった。谷の傾斜が緩やかになったので大休止をとる。続いて前方に約25mの滝がみえてくる。

滝は谷幅全体に水が落下している、幅の広い滝でなかなか勇壮であった、見上げるとハーケンがあちらこちらに打っており、シャワーを覚悟で直登すればおもしろい岩登りができると思う。この滝上からは、流れも緩やかになり、両岸の杉の木立が見え出して、ワサビ峠と中峠を結ぶ道に出合った。小休後、中峠からシャクシコバの頭を経て急な下りの続く小川新道を下った。南比良峠方面へ通じている奥の深谷に添う道を牛コバまで歩を進めた。

## 石ブチ東谷

昭和60年5月19日(日)

島田文雄

パーティ 島田、新川、武政

コースタイム 石ブチ谷林道入口8:30-石ブチ西谷との出会い8:50-東谷を遡行-尾根へ出る11:00-大日岳11:30-葛木山11:40-セト12:00-12:35-東西石ブチ谷で合い13:45-林道入口14:00

水越し峠の少し西方の石ブチ林道入口に駐車、林道を進むと東西石ブチ谷出合へ到着した。左側の石ブチ東谷を遡行する。水量は割合に多い大小の滝を直登したり巻いたりしながら遡ると14mか15mぐらいの滝に出る。何故か急に水量が少なくなり貧相な滝であった。これからは再び小滝の連続する谷筋となった。振り返ると、高原のような葛城山のツツジの群生が美しく眺められた。谷は明るく広々と開けて、最後の詰めのガレ場を登り切ると六道の辻へ通じている尾根筋であった。六道の辻、大日岳、葛木山をおお急ぎで通過してセトで昼食、雨が当たりだしたので予定していた石ぶち西谷を下る予定を中止して、林道を下ること

にした。しかし途中から林道を外れたためにとんでもない山中に迷い込み、杉の植林帯の急斜面をがむしゃらに下り着いたところは今朝出発した東西石ブチ谷出合いであった。

## 鎧岳から兜岳

昭和60年6月2日

パーティ 島田、新川

島田文雄

コース 名張駅 8:55バス—新宅本店前バス停 9:30—林道最終地点 10:00—杉檜の植林帯を直登して鞍部 10:50—鎧岳頂上 11:00—峰坂峠 11:40—昼食 12:15—兜岳頂上 13:00—奥香落ロッジ 14:00 (14:20)—葛バス停迄歩く 15:00—名張駅 16:00

名張駅前を出発したバスは清蓮寺川添い、柱状のビョウブ岩、鹿落岩、鬼面岩、岩柱、小太郎岩の下を走る。若い人たちのグループがヘルメットやザイルを背負い次々と下車して行った。我々も新宅本店前で下車し林道へはいる。林道の終点から山にかかるとたんに道がなくなり、しかたなく杉、檜の植林地帯のきつい斜面を直登する。刈とられた下枝が重なり合っていて靴が滑り登りづらかった。

約一時間のアルバイトで清水山の鞍部へ着いた。稜線を歩き一つの鞍部から鎧岳へ向かう、頂上は視界が悪くただちに元の鞍部へ引き返した。林間のきつい下りが続く、不老谷側は切れ込んでいて急に展望が開けてきた。正面に兜岳が目前に広がる。一気に峰坂峠まで下り大休止する。兜だけへの取り付きは急な登りが100Mぐらい続いたがやがて緩い登りとなった。岩尾根を歩くと今登って来た鎧岳が後方からのしかかのように我々を見下していた。曾根の集落が眼下に広がっている、東方に古光山を望むことができた。兜岳の頂上は、草原であったがここも周囲の樹のため展望を楽しむことは出来なかった。落ち込む様な急坂を木に捕まりながら下ると二か所ほど傾斜の緩い岩場があった、この辺から西が開けてビョウブ岩、住塚山、国見岳がよく望見された。赤目へ通じている林道を歩き、奥香落高原ロッジへ着いた。バス停で時刻表を見ると約40分も待たなければならぬので岳見橋バス停迄歩く、ここから見上げる鎧岳は関西のマッターホルンと

いわれているだけあって、円錐型の山容は、見事であった。なにかの本に「鎧、兜岳の両山は登る山でなく山麓から眺める山だ」と書いてあったが、全くその通りで登って見て余り面白くない山であった。

## ビョウブ岩（一ルンゼ）

国沢昭美

昭和60年7月27日28日

パーティ 小林 国沢

7月27日（晴れ）

上高地（5：35）横尾（7：35）一ルンゼ取付き（9：00）ビョウブの頭（15：10）カラ沢（17：00）

まだ薄暗い松本駅からタクシーで1時間余り。上高地は早朝とはいえ7月とは思えないくらい肌寒い。一日でカラ沢迄抜ける予定なので、横尾までの平坦な道ものんびりと歩けない。

小林さんにつれられてあるいていたら、岩小屋に2時間30分で着く、横尾本谷には、新しい丸木の橋が架けてあった。今までの涼しい道と違って一ルンゼ押しだしは、風が無く暑くて苦しい。一ルンゼ取り付きには、まだ雪渓が多く残っていた。おもいきり乾いた喉をうるおす。

雪渓の下にもぐり上に出る。後続パーティは、T4尾根の下を巻いたようであった。ちょうど10：00。ゼルプストを付けていよいよ登ハン開始である。

一ピッチ目は、クラックを登る。2ピッチ目は、緩いフェイスを登り最後に右へ出てのっこす。3ピッチ目は、緩い登りの後本流へは行って行く。4ピッチ目は、チムニー。5ピッチ目もチムニーを登り、出口のチョクストーンを越える。この辺り、チムニーの連続である。6ピッチ目のチムニーは、ホールドが見つからず難しかった。ピッチ毎に広いテラスがあって高度感が余りでないので、わりと思いついた動作がとれた。岩も乾いていてフリクションがよくきく。7ピッチ目は、狭い凹角内を登って緩傾斜帯へ出た。一ルンゼのくの字に折れ込んだ屈曲点の辺である。時間は、12：00。ここで一息付くことになる。喉が乾いてカラカラであった。大休止の後、コンテで広いルンゼの左側に沿って登って行く。傾斜は、緩いけれども浮き石ばかりである。私達が先頭だったので、上からの落石

は、無いけれどもすぐ下にいるパーティに落石をしないよう気を付かう。それでもだいぶ石を落としてしまった。

上部岩峰の基部まで約 250M。ここからルンゼは、岩峰左下へ続き再び狭くなる。脆い凹角を登って行くと滝の釜に入る。ここから再び右手の脆い凹角を登って尾根へ出た。最後のピッチ2本あって、まっすぐにも登れた様だけれども岩が大変脆いので右へ抜けて良かった。時間が充分あるので、のんびりとカラ沢へ下った。

7月28日(晴れ)

カラ沢(5:00)北尾根五、六のゴル(6:10)前穂高岳(9:20)岳沢ヒュッテ(12:00)上高地(14:35)

シュラフカバーだけのカラ沢の夜は、やっぱり寒かった。五時出発、五、六のゴル迄はきつい登りである。昨日の緊張の疲れがとれていないのか足が重い。人気のある北尾根なのに、今日は、人影もない。三峰のチムニーは、順番待ちも無く登る。時間待ち等無かったわりには、カラ沢から前穂山頂まで四時間以上もかかってしまった。山頂で大休止し、炎天下、重太郎新道を下り上高地へでた。

今回のルンゼ登ハンは、私にとって初めての本格的な岩登りでした。セカンドであったにもかかわらず、岩を楽しみながら登るといような余裕は全く無くて、ただ夢中で登ったと言う感じでした。トップのKさんの迷惑にならないように早く登らねはと気ばかりあせって、どうやって登ったかあまり覚えていません。上高地からカラ沢までの体力の持続と、登ハンに対する期待と不安が重なって大変緊張した山行でした。本番の岩登りというものが、ゲレンデとちがいがアプローチも含めて心身共にかなりのエネルギーを要求されるものだと思います。経験が足りないことと体力不足を痛感した山行でした。そして、大変充実した山行もありました。

## クソ丸谷

昭和60年9月15日(日)

パーティー 島田、新川、野上(博)

島田文雄

コースタイム 近鉄御所駅9:00タクシー-久留野町9:35-クソ丸谷入口

10:00ークソ丸斜滝ークソ丸滝ーモミジ滝ー伏尾峠道ー久留野峠ー千早口

バスの便が悪かったのでタクシーを利用して久留野町まで行く。クソ丸谷へかかる、谷には踏み跡があったが、谷巾が溝のように狭く、ブッシュで歩きづらい谷だった。第一番目のクソ丸斜滝で昼食、ここまで約2時間のブッシュ漕ぎで少々疲れた。次のクソ丸滝に続いてモミジ滝がいくてを遮っていたが、何れも固定ロープが付けてあり難なく滝上に出ることが出来た。これでこの谷の滝は終わる。3つの滝はザイル、ハーケンを使い直登すれば面白いと思うが、ここまで来るのに谷筋のブッシュ漕ぎは全く面白くない、後は杉の植林帯を直登して伏し見峠と久野峠を結ぶ尾根道へ出て今日の谷歩きは終わった。

## 奥美濃 板取り川川浦谷遊行

昭和60年9月7日、8日

内藤保一

奥美濃の黒部と云われこの地域最悪の谷と云われる。川浦谷本谷を遊行する機会を得て、岳友Y君と山行を共にした。9月6日Y君の車で板取り川途中まで行き、公園の様なところで、ピバーグ。

朝気が付いたが、ここは部落の人の無人野菜市場だ。午前7時、杉原部落を経て、川浦谷の奥のダムサイトまで林道に行く。まだ林道は、奥鳴り洞まで続いていたが、落石で林道は、行き止まりで仕方なく、ダムサイトにパーキング。ここより林道を川浦谷本谷まで約一時間、立派な鉄橋があり、この橋を越したところのガレを谷へと下る。この下は石門といわれるゴルジュで左岸上をトラバース。外傾でかなりいやらしいトラバースでここより川原へ下る。箱洞までは、平凡な川原で、マムシと何回か出会う、1時間余りで本谷最大の美滝、銚子滝に出会う約40M、直登は、不可で左岸を高巻き、灌木を使ってアップサイレン25Mの

下降、50Mのザイルを持参して助かった。巻き過ぎて銚子滝上の15Mの滝の落ち口へ降りた。ここよりしばらくは平凡で、まもなく両岸が切り立ったゴルジュとなる。最初は、5Mの滝を左に巻く、次ぎに8Mそして10Mと続きいずれも通過不能の最悪のゴルジュかなりやばい高巻きを左にとる。谷芯を覗くとすいこまれそうな迫力。小滝を越すと右より沢が入り、本谷は、又ゴルジュとなる。小滝を3つほど越すと谷が右に曲がり15Mの滝を架ける。左岸をしぶきを浴びながらフリクションのみで直登。そこから小滝の連続快適そのもの。最後8Mの滝を左に巻きゴルジュの上に出る。すぐゴルジュ、4M、5M、4M、5M、3M、と次々に出る。小の頃より雨が降り出す。しばらく川原があり、二条の3Mの滝、これより不気味なゴルジュ、そして10Mの滝、しばらくして2M、5Mの滝、でゴルジュが終わる。ゴルジュは、大変悪く、高巻きとなるがかなり悪い。やがて二俣となる。ここで雨も本降りとなり迷った結果ビバークとする。

テントなしのビバーク、午後2時。4事ごろ小降りになったので、Y君の持参の竿でアマゴ釣りに出かけたが、全く成果なし。この晩は、雨の音を聞きながらお酒を一升飲んでしまった。翌朝7時より荷物をデポして遊行開始。

左俣8Mの滝がかかる。本谷の右俣の遊行を続ける。平凡な沢が稜線まで続く。二俣よりしばらく進んだところでカモシカにであう、源流近く水深30cmの所で、アマゴの魚影を発見。手掴みで30分ぐらいの間に20-30cmぐらいのアマゴを5匹捕まえた。竿では釣れず手で捕まえるとは皮肉なものだ、越美国境稜線まで登ったがブッシュでてこずり、ビバークサイトまで引き返し、さっそくアマゴ料理、小枝を切って串ざし、その美味なこと最高。一生忘れないだろう。

岐路は本谷を下降し、何度かのアップザイレンし石門までもどる。ここでゴルジュをトラバースするか、ここを泳ぐかで意見が分かれたが、Y君がライフジャケットを持って来ていたので、泳ぐことにした。先にY君がザイルをつけ25M程泳ぐ、次は金槌の私が、Y君のザイルにしがみついで必死で泳ぐ。ザックを背負っているので沈まない、しかしザイルを強く引っ張っている、体が立ってしまって大変苦しかった。ここよりダムサイトまで林道を歩く。大変バラエティに富んだ山行で、忘れられ無い山行となる。

この谷に入る時は、板取り役場へ入山許可申請が必要、参考は、(わらじの会遊行)を参照されると良いと思う。

## 北岳より農鳥岳

内藤保一

メンバー L野上1 内藤1

### コースタイム

1日 広がわら沢 (7:00) 北岳稜線小屋 (15:30)  
2日 (8:00) 大門沢小屋 (16:00)  
3日 (8:00) 西山温泉 (12:10)

恒例の11月山行です。

11月1日夜行一甲府着夜中、2日朝4:00頃タクシーで広河原まで行く。朝は、快晴となり非常に寒かった。紅葉も抜群。広河原ロッジの前を落葉を踏み踏み快い感触にしたる。大かんばん沢をそれこそ、ぶらぶと登って行く。やがてバットレスの下を通過、16年前のバットレス合宿を思いだし、暫し思いにふける。登ハン者もいないようだ。

冷え冷えとした岩壁は、非情さも感じる。八本歯のコルに近づくときぎの霧氷も美しく、写真をとる。天気快晴申し分無し、稜線に出ると富士山が目飛び込んでくる。富士山も雲一つない、主稜線手前の所にザックを置き北岳往復。頂上には、15人位の登山者がおり、思い思いに写真を取っていた。中に単独で来ている、かわいい子がいた。写真を撮ってあげる。ザックの所に引き返し、主稜線をトラバースして北岳稜線小屋へと向かう。

ここのトラバースは、少し悪かった。小屋の脇でテントを張る。前に富士山を見ながらの幕営もいいものだ。朝6時小屋へ水を汲みに行くと、なんと私の好きな「ビバルディ」の「四季」の秋の曲がかかっているではないか。内部を丸太の様なもの作って有る小屋は、音響効果抜群で、うっとりして水を汲むのも忘れしぼしたたずむ。

気を取り直し、水筒に水を汲んでいると、頂上にいた女の子が出発するところであった。富士山を見ながら朝食、今日も快晴無風、今日も又ぶらぶらのんびり散歩、いやに大きな間の岳を越す。下り切ると、農鳥小屋だ。振り返って見た間の岳の大きさにびっくりする。西へ塩見岳への稜線がくっきり見えている。可愛子ちゃんと又出会う。ここから先、西山温泉までずっと一緒である。農鳥小屋より岩稜を頂上農鳥岳と向かう。東側はバットレス状になっておりスッパリと切れ落ちている。ルートは、殆ど稜線の西側に巻いている。やがて西農鳥岳30分ぐらいの下りで大門沢下降点。ここで大休止ゆっくりしたものだ。女の子がは

いると又楽しいものだ、早稲田大学ワングルだそうだ。ここより大門沢小屋まで膝が笑うほど下った。全くうんざりする程の下りだ。やがて小屋、広場でテントを張る。

アルコールがまわり良い気持ちになり、今日の楽しかったことを話し合う。朝食器を洗っていると例の女の子が、タバコ誘いに行ったが、もう休んでいたようであったので遠慮したと云った。惜しいことをしたものだ。

又ここからの下りが大変だ、吊り橋を四つほど渡る。彼女は、怖い怖いと云いながら渡る。こちらは冷やかしながら笑っている。やがて第一発電所、40分ほどで、西山温泉へ着く。温泉へ入っていくという彼女と別れ、バスの人となる。11月の山行で全日快晴に恵まれ、好きな音楽が聞け、可愛子ちゃんと同行し、全くこんな楽しい山行は、二度とあるまいと思う。

## 南アルプス 白根三山

昭和60年11月20日ー24日

メンバー 幸内 国沢

国沢昭美

昨年南アルプス（塩見岳）へ行ったとき、次は白根三山へ行きたいなあと思いました。それから、1年がたって白根三山を計画しました。最初は5名で行くつもりでしたが都合で2人になってしまいました。

21日

甲府の駅に着くと、すぐにタクシーに乗り夜シャ神峠へと行きました。雲一つない快晴でのんびりと朝食をしました。アスファルトの長い長い道のりを明日歩く山をみながら、どんどん広河原に向かって歩きました。13:00に着いて昼食を取りました。少し行くと、すぐ雪がでてきて11月にはこんなに雪があるのかと思いました。御池小屋には、16:00に着きました。小屋には3人のパーティがいました。

22日

御池小屋を7:00に出発しました。草滑り付近は、1m近くの雪で大変しんどかった何とか肩の小屋に11:00に着き快晴で気持ち良い感じだった。頂上は、すぐそこで別に危ないところもなく頂上にたった空には、レンズ雲があったがそれほど気にもせず北岳山荘へと、向かう。北岳からの下りと大かんばん沢との合流付近から風が強くなってきた。北岳山荘12:00に着いた小屋のかげで少し食べて出発する、途中まで行った



が風が強くて、前に進めなくて山荘へ、バックする。

18:00頃から風と雨が激しく吹き荒れた。夜が開けても、いっこうに良くなり  
らず。

23日10:00過ぎになんとか歩ける状態になった。

風が強いが快晴で間の岳の大きさを満喫しながら歩く、農鳥小屋が眼下に見え、  
西農鳥のルートを見ながら間の岳を下る。間の岳は、山稜が二重にも三重にもな  
っていて大変わかりにくい尾根であった。農鳥小屋14:00遅れているため先  
に進みたかったが、風が大変強く明日一気に下ればと思い今日は、ここまでにす  
る。

24日

朝から風と雨が強く停滞

25日

地吹雪の中にときおり風が止むような気配がする。6:00出発する。西農鳥  
のコルで余り風が強くて歩けなくて引き返す。

二度目は、10:00に出発し西農鳥の稜線近くまで行く、岩稜帯で風に飛ばさ  
れそうで小屋へ、引き返す。

今日帰らなくては、遭難したことになるので、是非下山したかったが、スリップ  
でもしたら、いっかんの終わりなのでここは慎重にと、思った。

夜中は、小屋の屋根をたたく音がすこしながら弱くなってきた。明日は、是非下  
山しなくては、救助隊が登ってくるだろう。

26日

雲の切れ間に、青空が見えはじめる。風は少し強いが昨日ほどでもない。早々に  
用意して出発する。ガスもなく西農鳥も良いルートからのぼれた。急いで奈良田  
へ、下山した。

発電所からあわてて会に連絡する。岸本氏は、こちらへ向かったと聞く  
ならだ温泉に着くと、警察が来ていて、捜索願いがでているといわれた。遅れて  
下山した時は、先ず警察に電話しなさいと注意された。

27日

山梨県警本部及びもよりの警察に、謝りに行く

28日

岸本さんところと、兵庫県警に謝りに行く

反省

山中ではMさんとYさんに大変お世話になりました。

登山計画書を県警に提出していたのがよかった。(人数がだいぶんかわっていた

が)

山岳会の皆さんに、大変迷惑を掛けてしまいました。  
これからは、もうすこし慎重に計画したい。

## 浦川谷

昭和60年12月8日(日)

メンバー 島田、新川

島田文雄

コースタイム 淡河本町10:00-浦河谷入り口10:20-巴滝12:00  
-鷹尾鉾山跡13:00-岩谷峠14:50-無動寺16:00

神姫バス淡河本町バス停から小雨の降りしきる中を南へ向かう。丹上参道と彫られた古い石の道標を見送って谷へはいる。行くての堰堤を越え谷筋に下り、そって行くと両岩が岸壁となり一寸溪らしくなった、しかしこれも150mぐらいで終わる、山が浅いので水量は少なく、何故か丹上山系の水は枯れている。間もなく巴滝の前に出た、滝壺は相当深く、ハヤであろうか小魚かなの姿が見える。滝を巻いてから大休止、谷をそって道に出ると鷹尾鉾山跡の案内板があった。再び谷へ下って進むうちに遂に伏流となり、木登りをして道に出ると淡河スカイラインであった。岩谷峠を過ぎ、岩谷川ぞいの旧道を歩いて無動寺へ到着した。

## 三室山山行

昭和61年3月9日

メンバー 内藤保一 内藤正司

内藤保一

久しぶりで兄弟での山行を計画、三室山へ行く事に決定、車で東河内まで、7時着、7時15分より、キャンプ場を経て、取り付きへと向かう。4年ほど前登頂したが、地図上のルートに登ったが、ブッシュと急斜面で苦勞したので、今回

は、1198Mのピークへ突き上げている、尾根をダイレクトに登る。取り付きにて、ワッパを履く、膝下くらいのラッセルでかなりきつい。高度を上げるにつれて、先年三室山より後ろ山の縦走した県境尾根が手にとるように見渡せる。後ろ山の大きな山容が印象深い。

しばし過去のおもいを懐かしむ。天候快晴。

弟とラッセル交代しながら、雪稜散歩をしゃれこむやがてピーク近くの稜線上に岩峰があり、ここにワイヤーがあった。どうも地図には載っていないが登山道のようなのだ。この岩峰を南側から絡んで尾根を進むとやがて主稜線上の1198Mのピーク、ここで小休止、午前10時、西に県境尾根が、美しい雪稜をみせている。天児山、奥に沖の山、東山と真っ白な雪をいただいているのが見渡せる。小休止後、北へ広い尾根を下る。この辺は、スキーで下れば快適、40分ほどもうれつなラッセルで絶頂三室山1358Mに着く、快晴無風、360度の展望北東に氷ノ山が大らかな姿を、その北に扇の山、手前に青が丸、素晴らしい展望、西に県境尾根を通して鳥取の山々が、真っ白な姿を、南に岡山の県境の駒の尾、後ろ山、日名倉山などなつかしい山々が見渡せる。なを頂上は、10時50分着、写真を取った後食事を取り下山にかかる。下山ルートは一般にとるルート（県境尾根の南の尾根）を一気に下る。キャンプ場に着いたのは、12時10分。思ったより早く下山できたので部落の季節旅館でイワナの刺身と塩焼を食べたい変りッチな気分になった。帰りに瑠璃寺により、家内安全をお願いし帰神。大変充実した山行でした。なお積雪期に三室山へ登る場合、私達の取ったルートが一番安全ではないかと思われる。



## 岳友 故木村寅次郎氏のこと

島田 文雄

去る4月25日病のため、黄泉の客となられた故木村寅次郎氏は、神戸山岳会が昭和15年に発足した当初からの会員であり又、本会最長老でありました。行年73才、現在日本の平均寿命に比べ約10年も早く他界されたことは、悲しいという一言につきます。

私と木村氏の出会いは、とうい昔の昭和8年か9年の頃だったと思う。その頃既に毎日登山が盛んであって、私も山行のトレーニングのためハンター坂（現在はダムができて昔の道はない）から二本松を経て再度山善助茶屋迄登っていた坂で、木村氏と毎朝のようにハンター坂で顔を合わせ、お互いに短い言葉を掛け合っていました。

昭和9年に木村氏が中心となり（嶺）同人という登山団体を創立され、ハンター坂を登りながら、会の創立のこと、メンバーの事等を話され、この会に加わるよう勧めて頂きました。

当時、私も岩や氷の山を目指して居りましたので喜んで（嶺）の仲間に加えて頂き、それ以来半世紀を越す外お付き合いが始まったのです。

神戸背山の妙号岩、城ヶ越、ヌクト、保壘岩、ロックガーデン、道場の岩、等で休日ごとに岩登りの練習に励んだものです。冬は、氷の山、鉢ぶせ山、妙見蘇武、伊吹等のスキー登山を楽しんだり、四季を通じ大山、西穂高、奥穂高、鹿島槍、白馬等の岩や氷の山へ出かけて行ったことなどが懐かしく思い出されます。

昭和15年2月に妙見蘇部岳をスキーで縦走中に、妙見山山腹で神戸の八重がき君が雪崩で遭難死亡した折りその付近に居た我々は、救護活動をしたのですが、中支戦線から帰還されて間もない木村氏は、軍隊仕込みのきびきびした指図や、人工呼吸等の適切な行動と活躍ぶりは、今でも深く印象に残っています。

私がまだ丸坊主であったので、19歳か20歳の頃だったと思いますが、木村氏と二人で私には、初めての冬山の御岳へ登ったことがあります。アイゼンやピッケルの使い方も不慣れな私に細心の注意を払い又、適切な指導をして頂いて、頂上を踏ませてもらいました。頂上のほこの前に二人が並び、セルフタイマーで写した写真が手元に残っています。

帰神後風邪と疲れのため寝込んでしまった私を心配して毎日のように見舞って頂きましたが、兄が弟を思うように、本当に親切な心優しい人でした。

（杉本光作氏著「私の山谷川岳」という本の「穂高びょうぶ第二ルンゼ登はん記の中に「・・・略・・・、山口君がとなりの人と話し始めた。神戸の人で木村と言っていた。私達の会のことも良く知っているらしく、話はもっぱら、び

ようぶ岩のことで、みんな相当に岩登りをやっているひとのようだ、……略  
……」という一文がありますが、これは昭和11年8月のことでありますが、  
これより先の昭和9年には、故青木一男氏、現稜線山岳会の康林佐太郎氏の三名  
でようぶ岩第二ルンゼ正面の壁を弱冠21才で概に岩登りでは一流の域に達し  
て居られたのです。社交性のある人で、山小屋などでは初対面の人でも気安く話  
されて居りました。

以上三つの単文から木村氏の人柄の一端を知ることが出来ると思います。

4月の初めごろ、病院へお見舞いに行った居りに、色々と山の話をして居り  
ましたら、昭和16年の夏に北岳パットレスを二人で登はんする計画を進めてい  
たことを思い出され、折角の計画も当時の国際情勢悪化のために中止せざるをえ  
なかつたことが非常に残念であったのか、二度も三度も口にされたことが耳に残  
って居ります。

最近木村氏の都合に合わせ、神戸の裏山や、帝釈の山を昔登った山や岩の思  
いでを話し乍、二人で静かに歩くのを楽しみにしておりましたか、それも出来ぬ  
こととなりました。

思い出を綴れば限りがあります。お知り合いになって以来、登山のみでなく、  
私的なお付き合い、励まし、ご指導等約五十年に渡る友情を感謝しながら筆を置  
きます。

尚「嶺」同人は昭和15年神戸山岳会誕生の母体となり、解散しましたことを  
付記します。

最後に「峻秀院釈岳寅」殿の御霊前にこの拙文を捧げ御冥福を祈ります。

合掌

昭和61年5月28日記

夏山合宿

剣岳

8月15-18日

7月2日(火)集会

参加者 片山 新川 岸本 古賀 矢木 広池 大西 堀田 永田2 吉田 山崎  
迫田 国沢 幸内

夏山合宿

予定日 8月9日-8月19日  
目的 登はん  
場所 穂高(カラサワ)BP

#### 個人山行

上高地-西穂高-槍ヶ岳-7月12日-15日 広池  
びょうぶ岩(東稜) 7月12日-14日 小林 矢木 国沢  
飯豊山脈 7月26日-31日 幸内 幸内 大西

#### 海外山行

ブータンに片山氏が行かれ、KACの今後の山行目標と、なる山(6000M)峰をトレッキングにより、探されます。

#### 7月8月 例会予定

7月 7日 不動岩 前夜22:00国鉄宝塚 国沢  
14日 長峰谷-保塁岩 当日9:00阪急六甲 迫田  
21日 雪彦 詳細は当番迄 広池  
28日 重荷 菊水山-摩耶 当日阪急六甲9:00 吉田  
8月 4日 保塁岩 当日阪急六甲9:00 矢木  
6日 集会  
11日 準備会 10:00岸本宅  
25日 反省会 10:00研修所  
9月 1日 たいしゃく山 神鉄箕谷9:30 幸内

会員名簿を新たに作成したい。

#### 8月6日(火)集会

参加者 片山 島田 矢木 古賀 吉田 広池 永田 迫田 国沢 山崎 馬場  
大西 幸内

#### 個人山行

永田 家族登山 8月8日-からさわBP-奥穂高。-北穂高。-蝶ヶ岳  
9月3日(火)集会

参加者 片山 島田 新川 岸本 小林 迫田 古賀 馬場 吉田 堀田 国沢  
矢木 広池 永田 永田 大西 幸内

#### 岳連関係

指導員検定資格 25歳以上 経験 夏山 7年 冬山 5年以上



ブータンヒマラヤについて

1987-88年をめぐりに6000-6500mを目指す。

神戸山岳会と神戸市役所山岳会が中心とした登山隊とする。

ブータンの山 (岳人10月号に参考記事有り)

2月4日(火)集会

参加者 片山 新川 岸本 武田 小林 古賀 国沢 永田 永田 山崎 幸内

春山 5月 剣岳 源次郎尾根 ハツ峰

白馬 主稜

穂高 岳沢をベースにして雪上技術訓練

例会

2月16日 有馬四十八滝 神鉄新開地 21:00 古賀

23日 伊吹山 小林

3月 2日 スキー大会 鉢伏

4日 集会 研修所 19:00

9日 ヌクトゲートロック 新神戸 9:00

3月4日(火)集会

参加者 片山 岸本 小林 永田 永田 国沢 馬場 古賀

ブータンヒマラヤ登山隊並びにトレッキング隊派遣について

資料 ブータン全国及びブータン北西部概念図

ブータン大國登山規則

西遊旅行による日程表(トレッキング)

上記の資料と共に参加者の有無アンケートを会員に送付する。

昭和61年度 4月13日(日)

個人山行 3月15日-23日

槍ヶ岳-立山 スキーツアー メンバー 小林 吉田 同じ戦場の方

春山 5月3日4日5日を中心にして行う

4月1日の集会に計画所を提出する。

例会

3月16日 山寺尾根-最高峰-芦屋 阪急六甲 9:00 国沢

23日 城山パットレス 新開地 9:00 岸本

30日 大月地獄谷 阪急御影 9:00 幸内

4月 1日 集会 研修所 19:00

6日 芦屋ロックガーデン 阪急芦屋川 9:00 馬場

13日 61年度総会 研修所 13:00

20日 菊水山-摩耶山 菊水山駅 9:30 永田



27日 春山準備会 岸本宅 10:00  
5月3日4日5日 春山 穂高 岳沢  
11日 反省会 研修所 10:00  
13日 集会

4月1日 (火) 集会

参加者 片山 島田 岸本 小林 国沢 古賀 永田 幸内

総会の立案

会長、委員長、副委員長、会計、装備、企画、庶務、リーダー会、会報

## 昭和61年度総会御案内

神戸山岳会 会長 片山英一

昭和61年度の総会を下記の通り開催致しますので御案内申し上げます

昭和61年4月13日(日曜日) 午後1時-3時  
神戸登山研修所 1階 会議室

### 議案

1. 昭和60年度事業報告-委員長並びに各担当委員
2. 昭和60年度会計報告-会計担当委員、及び監査報告
3. 昭和61年度役員選出
4. 昭和61年度事業計画-委員長
5. 昭和61年度予算(案)-委員長
7. 会員名簿改訂の件(入会者、退会者)
8. その他
  - イ) リーダー会- 今後の会の方針について
  - ロ) ブウタンヒマラヤについて
  - ハ) 委員長のあいさつ
  - ニ) 会長のあいさつ

以上